

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02585

研究課題名(和文) 中国の文学革命と19-20世紀世界 古典詩学と言語研究

研究課題名(英文) The Chinese Literary Revolution and the 19th -20th Century World: Chinese Classical Poetics and Linguistic Studies

研究代表者

平田 昌司(Hirata, Shoji)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：50150321

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、20世紀初期中国における書記言語近代化の動因を、特に中国知識人の国際ネットワークという視点から明らかにすることを意図した。研究対象としては、(1)若い世代から胡適・任鴻雋、(2)やや年長世代から章炳麟・王国維を選んで、彼らの文学言語観に、どのような革新性が見られるかを検討した。

その結果、中国人留学生たちの間で、国境を越えた知的ネットワークが存在したこと、新世代は旧世代の学問の影響を非常に深く受けていることを明らかにした。特に、1917年に胡適が発表した「文学改良芻議」は、文学革命の起点と言われる。彼のこのエッセイが、章炳麟・王国維らの革新的な側面を継承していることを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで中国という単一の文化圏で論じられがちであった「文学革命」を、19世紀末から20世紀初頭の欧米・日本における言語・文学の近代化の動向との関連でとらえなおしたものである。また、「文学革命」が伝統中国といかなる連続性を持っていたかを、一次資料の分析を通じて具体的に指摘し、過去の研究よりも明確に提示することができた。これにより、「文学革命」・五四運動の文化史的意義を、世界史を視野において理解することがよりたやすくなった。

研究成果の概要(英文)：This study is intended to clarify the driving force of the modernization of Chinese writing language in early 20th century China, especially from the viewpoint of the international network of Chinese intellectuals. The main focus of this study are (1) Hu Shih and Ren Hongjun from the younger generation, and (2) Zhang Binglin and Wang Guowei from the older generation.

We found that there was a cross-border intellectual network among Chinese students, and that the new generation was greatly influenced by the studies of the old generation. In particular, the "rennet rennet" published by Hu in 1917 is said to have been the starting point of the literary revolution. He pointed out that this essay inherited the innovative aspects of Sho Byung-rin and Kunifumi.

研究分野：中国語学・中国文学

キーワード：中国文学 文学革命 胡適 任鴻雋 章炳麟 王国維 梅光迪

1. 研究開始当初の背景

胡適(1891-1962)が1917年に『新青年』誌上に発表した論説「文学改良芻議」を嚆矢として、「文学革命」と呼ばれる中国語・中国文学の近代化運動が始まるとされる。この運動は、中国における言文一致や国語規範形成に転機をもたらしたのみならず、1919年5月4日に始まった五四運動を支える背景のひとつとしても大きな意義を有するものであった。

この「文学革命」の可能性について、実質的には1916年夏、胡適・梅光迪(1890-1945)・任鴻雋(1886-1961)らが在アメリカの中国人留学生たちの間で賛否を交えた活発な論争があったことは、日本でもすでに指摘されてきた(大木康・藤井省三『新しい中国文学史』、1997年)。

本研究を開始した2016年は、この1916年の「文学革命」論争からちょうど100周年にあたる。100年を隔てて顧みると、「文学革命」が以後の中国にどれだけの波及力をもったかが明らかになる。また、20世紀における「文学革命」研究は、主に胡適の公刊した著作に頼っていたが、1994年に『胡適遺稿及秘蔵書信』が中国で出版されたのに始まり、21世紀に入ってから任鴻雋の書簡資料の公刊、欧米・中国における新聞雑誌オンラインデータベースの公開などが続いたことで、当時の実態を知るための資料は飛躍的に増加した。これらを参照して、「文学革命」を再評価する必要性が出てきた。

2. 研究の目的

本研究は、これら在アメリカ中国人留学生たちの知的基盤が何であったかをより具体的に解明し、19~20世紀世界の中に「文学革命」を位置づけることを目的としていた。

とりわけ「文学革命」の核となるのが詩歌の革新であることに着目した。口語体の小説やエッセイは、中国において古くから俗文学の伝統があり、20世紀になって新しいスタイルを構築するのは相対的に容易である。一方、優れた古典詩の伝統がある中国で、伝統的韻律を無視した近代詩を創成し、かつ主流とすることは難度が高い。この困難さに直面した「文学革命」の担い手たちの主張、それに対する伝統派からの反発という緊張関係を明らかにすることには大きな意味がある。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するために、本研究においては以下の一次資料を読解し、それぞれの文献の成立に至るまでの由来を調査することによって、「文学革命」がどのようにかたちをとっていったかを具体的に明らかにすることとした。

1. 任鴻雋の胡適あて書簡(任のアメリカ留学期間を中心とする): ふたりが、留学生として、20世紀中国の言語・文学をどのように作り上げていくかを国外の視点から活発に議論した重要な一次資料である。
2. 章炳麟『国故論衡』「辨詩」: 伝統文学擁護派の学者とみなされがちな章炳麟(1869-1936)であるが、その詩歌観は革新性に富むもので、在アメリカの胡適にも強い影響を及ぼしている。後に続いた胡適の著作を参照しながら本篇を精読することによって、両者の継承関係を実証的に明らかにする。
3. 胡適「文学改良芻議」: この論文は、一見したところ、研究されつくした陳腐な資料に見えるが、細かく調査していくと、先立つ章炳麟・王国維(1877-1927)らの文学論や詩歌作品の強い影響下にあることを、これまでの読解はあまり注意していなかったことが分かる。伝統と近代の接続を具体的に知るための重要資料である。
4. 王国維『人間詞話』: 初出形である『国粹学报』連載(1908年)のテキストと中国国家図書館蔵手稿本(浙江古籍出版社影印本)を対照しつつ読解をすすめ、原稿執筆後、雑誌掲載までに王国維がさまざまな顧慮から改訂した点について検討する。

4. 研究成果

本研究の成果は以下のとおりである。

まず「文学革命」の全体的な見通しを示す「1916年の「文学革命」」(日本中国学会第68回大会口頭発表(奈良女子大学)2016年10月9日)において、中国詩のための近代的韻律の創成が胡適によっていかに試みられたかを提示した。

ついで、章炳麟が、日本亡命中に明治期の文学教材を介して欧米近代文学論の刺激を受けていたことを論じたのが「章太炎“文”説溯源」(現代文学と書写言語国際研究会口頭発表、2017年9月23日 北京大学中文系)である。

さらに五四運動期の国語教育と文学運動をあわせて明らかにしたのが「言文二致の理想 胡適の国語教育論」(国際シンポジウム「国語施策/言文一致運動を東アジアの視点から考える」2018年12月15日 科学研究費基盤A「明治日本の言文一致;国語施策と中国をはじめとする漢字圏諸国への波及についての研究」口頭発表)、「借問五四今何在,晚清一去亦不還 中學國文教育的五四經驗」(五四@100:思想、文化、學術論壇口頭発表、2018年12月21日 中央研究院中國文哲研究所)である。

「文学革命」と日本の言文一致運動との対比を通じて、近代論説の文体が東アジアでどう形成されたかの一端的な解明を試みたのが「幸徳秋水的文體偶聯：和漢、文白、雅俗、言文」(「近代における言文一致・国語施策と東アジア」国際シンポジウム口頭発表、2019年7月26日 東京大学総合文化研究科、科学研究費基盤A「明治日本の言文一致・国語施策と中国をはじめとする東アジア諸国への波及」)であった。

また、中国における最初期の近代演劇作品とされる胡適「終身大事」と在アメリカ中国人留学生社会の関連について、「胡老師的 終身大事 從「遊戲的喜劇」到「社會問題劇的濫觴」」(『中國文哲研究通訊』29、2019年)で論じた。本篇は「五四運動 100 週年國際學術研討會」口頭発表(2019年5月4日 中央研究院)を踏まえている。

以上のほかに、2019年國立臺灣大學潘寶霞女士講座として「電報、電話與晚清民初的語言文學」(2019年11月26日 台灣大學中文系)、「章太炎與胡適 重讀 文學改良芻議」(2019年11月27日 台灣大學中文系)、「文化制度與漢語發展」(2019年11月29日 台灣大學中文系)の3回の講演を実施し、台湾大学を中心とする研究者との成果共有に努めた。

成果の多くは、中国を軸にしなが、留学生・海外亡命知識人を介して日本・アメリカ的要素が20世紀中国にどう受容されたかを示した。ただし、中国国外から中国へという一方向での受容にとどまったわけではない。吉川幸次郎「エイミー・ロウエルのこと」(1951年)がつとに紹介している Florence Ayscough & Amy Lowell, *Correspondence of a Friendship* を読んでみると、アメリカ・イマジズムを代表する詩人のひとりエイミー・ロウエルが、遅くとも1922年に、在アメリカ中国人留学生 Telly H. Koo (Koo T'ai Le) から、胡適の提唱している「文学革命」について教えられ、強い興味を示し、中国古典詩・韻律論について胡適本人と通信してみたいと考えていたことが分かる。19-20世紀中国の詩と詩論が、20世紀アメリカにどう受容されたかも研究すべき分野であるが、本研究ではごく簡単な端緒をつかめたに過ぎない。さらに言えば、胡適に対する厳しい批判者であった梅光迪・吳宓(1894-1981)の主張する詩論・文学論についても対照研究をおこなうべきであった。この点は、ほとんど手をつけられていない。

残念ながら研究期間中に完成できなかったが、任鴻雋の胡適あて書簡については翻字・翻訳・注釈の作業をほぼ終えており、公開を予定している。また、「文学改良芻議」に関しても新しい注釈を公開したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 平田昌司	4. 巻 29-3
2. 論文標題 胡老師的 終身大事 從「遊戲的喜劇」到「社會問題劇的濫觴」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中國文哲研究通訊	6. 最初と最後の頁 135-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.30103/NICLP	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 8件/うち国際学会 5件）

1. 発表者名 平田昌司
2. 発表標題 胡老師的《終身大事》——從「遊戲的喜劇」到「社會問題劇的濫觴」
3. 学会等名 五四運動 100 週年國際學術研討會（2019年5月4日、中央研究院）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平田昌司
2. 発表標題 幸徳秋水の文體偶聯：和漢、文白、雅俗、言文
3. 学会等名 「近代における言文一致・国語施策と東アジア」国際シンポジウム（2019年7月26日、東京大学総合文化研究科）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平田昌司
2. 発表標題 《萬朝報》和幸徳秋水の文體
3. 学会等名 「中国の文学革命と19-20世紀世界」研究会（2019年11月16日、京都大学楽友会館）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平田昌司
2. 発表標題 電報、電話與晚清民初的語言文學
3. 学会等名 2019年國立臺灣大學潘寶霞女士講座第一場（2019年11月26日、台湾大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平田昌司
2. 発表標題 章太炎與胡適 重讀 文學改良芻議
3. 学会等名 2019年國立臺灣大學潘寶霞女士講座第二場（2019年11月27日、台灣大學）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平田昌司
2. 発表標題 對日抗戰下的《世說新語》 吳 宓、陳寅恪、賀昌群、余嘉錫的讀史注史
3. 学会等名 台灣・中央研究院中國文哲研究所 特約講演（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平田昌司
2. 発表標題 借問五四今何在，晚清一去亦不還 中學國文教育的五四經驗
3. 学会等名 五四@100:思想、文化、學術論壇（台灣・中央研究院中國文哲研究所）（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平田昌司
2. 発表標題 言文二致の理想 胡適の国語教育論
3. 学会等名 国際シンポジウム「国語施策/言文一致運動を東アジアの視点から考える」(関西大学)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平田昌司
2. 発表標題 章太炎“文”説溯源
3. 学会等名 「現代文学与書写語言」學術會議(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平田昌司
2. 発表標題 1916年の「文学革命」
3. 学会等名 日本中国学会第68回大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 平田昌司	4. 発行年 2016年
2. 出版社 北京大学出版社	5. 総ページ数 342
3. 書名 文化制度和漢語史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----